

鈴木 教材を進めて、子供を落伍させ、これはお母さんたちに見せるために、昔、音楽院の階段の正面に貼っておいた私の川柳ですが、お母さんたちは曲が進むといかにも技術的にも進んだやうな感じになってしまふんです。そして次の曲へ次の曲へと先へあせるもんですからだめなんですね。

石井 それでおもしろい話があるんです。私はお母さん方にいろいろな相談を受けるんですが、その中に「うちの子供は、同じ物語ばかり、毎晩せがむんですが、それも同じところへくると決まって、アハハハとおもしろさうに笑ふんですが、うちの子は少し足りないのではないでせうか」といふんですね。こんな心配ごとがお母さん方に多いんです。

つまり子供といふものは、さういふ本性をもっているからこそ、成長するわけですよ。言葉だって同じものを何回も聞くからこそ、深い味はひをもってくるんだと思ひますね。これが絶えず新しい物語ばかり読んでやってみたら、日本語を話す能力に少しも結びつかないと思ひますね。

ですから私は、同じものを喜ぶ、反復を喜ぶといふのは、幼児に

与へられた本能だと思ひますね。

鈴木 全くその通りですね。それを使って能力を育てていくんですね。

石井 私は、さういふ子供だから、お母さん、頼もしいんですよ、と言ってやったんです。そしたらお母さんは、それを聞いて安心したとおっしゃいましたがね。

鈴木 お母さん方の考へ方と言ひますか、心といふものは、子供たちに非常に敏感に伝はりますね。

先日、こんなことがありました。ある地方からわざわざ松本までおいでになったお母さんがあましてね。四歳の子供さんを連れて来て、このごろヴァイオリンのおけいこを少しもやらないし、幼稚園でも「お宅の子供さんはどこか欠陥があって、ともかく普通ではない」と言はれたと相談に来られたのでした。

そこで私はお母さんに、「あなたがさうした不安を心の内にもってゐて、この子は正常ぢゃないんだと決めつけてあつしやるんではないか、こんなに日本語を自由にしゃべれるではないですか、どこに欠陥があるんですか」といふ話から、体のどこかに原因がありはしないかと思つて、整体協会の松本支部が出来たものですから、そ

ここで診てもらったらと紹介してあげたんです。健康といふことは能力の成長に欠かせないものですからね。そして田総先生の治療^{ちりょう}を受けて帰って行かれました。

すると一週間ぐらゐたってお母さんから手紙が来て、「子供はどうしたものかすっかり変ってしまって、とても意欲的にヴァイオリンを弾くやうになったし、幼稚園へも喜んで行くやうになったし、行動も今までとすっかり変りました。先生のところへうかがって本当によかった」といふ礼状でした。そこで田総先生にお目にかかって、この間の子供さんの治療の礼を言ひ、お母さんから喜びのお手紙をいただいた事を話したんです。

そして何か体に欠陥があったのでせうかとお聞きすると、先生は、「お母さんからいろんな話を聞いてみるうちに、どうもこれはお母さんの方に原因があるやうに思ったので、子供の背中を撫でながら、さういふをかきな考へを改めることが根本であるといふことをうんとしゃべって、お母さんの方を治療^{ちりょう}したのであって、子供の治療をしたわけではありません」とおっしゃるんです。おもしろいと思ひましたね。なるほど親のさうした気持は潜在的にあるにしても、子供に大

きな影響を与へるものだとつくづく考へさせられましたね。

さういふ意味においても、教育に従事する者、つまり先生ですね、これは親と同じ状態にあるわけですからね。よほど心しなければならぬと思ひますね。